

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	港湾空港課長 奥村 恭	電話番号	0852-22-5228
----------	-------------	------	--------------

事務事業の名称	ポートセールス事業		
目的	(1) 対象	浜田港の利用企業及び利用の見込まれる企業	
	(2) 意図	国内外の市場獲得に向けて、国際貿易港浜田港の取扱貨物量の増加を図る。	
事業概要	浜田港の利用を促進するため、利用企業及び利用の見込まれる企業に対して、商工労働部などと連携して宣伝活動等を行う。		

2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名	韓国定期コンテナ航路の取扱貨物量	目標値	3,000.0	3,300.0	3,600.0	3,900.0	TEU
	式・定義	コンテナ取扱実績本数	取組目標値					
			実績値	2,482.0				
			達成率	-	-	-	-	%
2	指標名		目標値					
	式・定義		取組目標値					
			実績値					
			達成率	-	-	-	-	%

3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費(b) (千円)	401	401
うち一般財源 (千円)	0	0

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した(実施予定、一部実施含む)
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状(客観的事実・データなどに基じた現状)

- 韓国航路コンテナ取扱本数は、2,482TEUで対前年度比73%
- 輸出額については、対前年比29%(主力貨物であるロシア向け中古車の輸出額は対前年比17%)
- 輸入額については、対前年比87%(主力貨物である原木の輸入額は対前年比88%)

6. 成果があったこと(改善されたこと)

- 平成27年2月に輸入を始めたPKS(バームヤシ殻)や石炭、非金属鉱物、さらに風力発電関係の部材特需により、在来貨物の輸入が昨年実績から127%の増加。
- 現行のコンテナ船(342TEU)の大型化要望に対応するため、福井4号岸壁の増進工事を行い、H28年度中に700TEUクラスの国際的コンテナ船の入港に対応可能。

7. まだ残っている課題(現状の何をどのように変更する必要があるのか)

①困っている「状況」

- コンテナ貨物の取扱量が前年度を下回り、ロシア向け中古車輸出、原木輸入が減少傾向。

②困っている状況が発生している「原因」

- ロシアの中古車需要の減少。
- 檜丸太やバルブの輸出が大幅に減少。
- 合板材料を国産材にシフトする傾向。

③原因を解消するための「課題」

- 中古車に代わる対ロシアの新規貨物の掘り起し。
- 国産材の輸送をトラックから内航船にシフト。

8. 今後の方向性(課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方)

- H25年度開設した浜田港湾振興センターを中心に、浜田港湾振興会や浜田市にH26年度新設された広島開拓室、平成28年度に設立した浜田港拠点化形成研究会などと連携し、ポートセールスの強化、集貨対策を行う。

・課(室)内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効果的・効果的に行ってください。

・上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価(任意記載)